

#### 第4回 松本市史 平成・令和版 編集委員会 会議録

日 時 令和8年6月26日(金) 午後1時30分～2時40分  
場 所 松本市文書館 講義室  
出席者 ・編集委員 直井雅尚委員、遠藤正教委員、一ノ瀬幸治委員、渡辺宏委員、  
柏澤由紀一委員、窪田雅之委員  
・事務局 逸見和行文書館長、木曾寿紀専門員(兼委員)

- 1 開会
- 2 あいさつ(逸見文書館長)
- 3 会議(議長 窪田委員長)

##### (1) 協議事項

##### ア 前回の質問に対する事務局方針について

(議長)

前回の質問に対する事務局方針について、事務局から説明願う。

(事務局)

まず1つ目。前回地域づくりセンター、地区公民館への協力依頼についての話があり依頼文等についてご協議いただいているが、これについては、市史の構成が固まった段階で地区にお願いしていくこととしたい。また、地区ごとに公民館等でまとめた資料については、地区によってばらつきはあるが、積極的に収集して取り込んでいきたい。

次に調査活動時につけるネームプレートに関して名刺の作成という話もあったが、ネームプレートで対応していきたい。

続いて年表の位置付けについて、本文中に記載されることもあり重複するという話もあったが、年表の資料としての位置付けの重要性にかんがみ、巻末に掲載することを考えている。

コラムについては、前回例として120人という話もあったが、人数的にも多いことから見直したい。ただし、市史においてアクセントになるものとして必要と考えているので、ポイントとなるところに入れていきたい。

次に執筆要項。前回ほぼ認めてもらっているが、いただいた意見を含めて調整し別紙のものを最終版としたい。読者と同じ目線でということで「ですます調」とするもの。

執筆分担については、本日の協議事項の3つめで改めて協議いただきたい。

(議長)

前回委員の皆さんから出された質問等々について事務局の方針を5項目示していただいた。

地域づくりセンターと公民館の関係、それから調査者のネームプレート、年表をどう位置付けるかと、コラム、それから執筆要項最終版。順番は構わないので、そ

それぞれの委員さん、ご意見、ご質問があればお願いをしたい。

(D委員)

「ですます調」にするのがスタンダードなのか。

(事務局)

近年、例えば県内でも伊那市が自治体史を刊行している。そこでは、「ですます調」が採用されており、県内で直近のところが「ですます調」であることも考慮してこのようにした。

(議長)

前回もご意見をいただいた。それを踏まえて事務局でも揉んでいただいたようだ。読者と同じ目線でということで、事務局では「ですます調」でいきたいということでこのようにした。ほかに、いかが。

(B委員)

最近、私の周りでも「ですます調」が多い。今回、特に子どもに広く読んでほしいということがあったと思うので、「ですます調」のほうが読んでもらえそうな気がする。博物館では、展示は「である調」で書くが、刊行するものは「ですます調」が増えてきているので、「ですます調」でよいと思う。

(議長)

執筆要項についてはよろしいか。

年表はどうか。重複はするが資料という扱いで巻末に付けたいという方針説明があったかどうか。

(D委員)

索引的意味合いもあるということでよいか。

(議長)

索引的というところが皆共有できていないと思う。どんな感じを考えているのか。

(D委員)

年表で該当は何ページと入れるイメージ。キーワードは太字で書くと思うので。

(議長)

事務局、いかが。

(事務局)

おそらく年表のところに、この部分は何ページというふうに、分かるように記載するというところだと思うが、全てのところに記載するのはページ調整も含めて困難だと考えている。

(議長)

委員のほうで、刊行されたもので見本や参考になるものがあれば、委員会のなかで紹介いただきたい。具体的にどのように落とし込んでいくのかということを全員で共有することができていないのではないかと思います。

(D委員)

重複するから結構難しい。第1章と結構だぶってしまう。

イ 構成・内容などについて

(議長)

続いて、イの構成・内容について事務局から説明願いたい。

(事務局)

(資料をもとに説明)

(議長)

前回の第3回委員会で提示されたもの、特に第4章をちょっと細かくして本日の委員会に提示された。第2章の松本市のすがたのところが市内35地区に関わって地区共通としてこのようなものをあげたいということと、平成になって合併した地区にあっては、旧村旧町の合併経過も含めて表わしたらどうかと示されていると感じた。

市政と市民のくらしは、市の基本構想2030、第12次基本計画の項目に沿って並べてある。市史という位置付け上、どんな市町村史も市のまつりごとについてはある程度ページを割いて書いているが、旧市史参照ということは、5巻11冊の市史の現代編のところに記述があるが、それに準じた記述になるものととらえた。

未来へのノスタルジー&メッセージのところは前回よく分からなかった部分だと思う。今事務局から改めて別紙で説明があった。

どの章からでもよいので、質問・意見をいただければ。

(D委員)

第4章、3ガクにまとめるのはすごく難しく感じる。例えば、環境といっても山だけじゃないし、信仰もあるが3ガクにまとめるのは難しいと思う。

(事務局)

確かに、バランス的に山岳の部分にどれだけまとめるものがあるのかということは今時点では分からないが、今松本市の方針として、三つのガクを前面に出して施策を進めている。来年度の刊行を考えるとそれに沿う形が整合がとれるし、受け取った側のイメージも湧きやすいかなと考えこのようにした。

(D委員)

できなくはない。例えば山岳信仰を取り上げればいいが、ほかの信仰はいらないのかということになる。

(事務局)

今日は素案としてこれを示しているので、議論していただきたい。

(D委員)

総論とかまとめのところに3ガクを書いて、あとは自由な項目を書いたほうがまとめやすいと思う。強引に3ガクにまとめる必要はないと思う。普通に、環境とか文化とかっていう感じでもいいような気がする。

(議長)

今事務局から説明があったように、松本市としては三つのガク都ということをや

っている。ただ、今回の市史の場合に最初からこのように分けるのはどうか。今、委員から最初に3ガクの位置付けを書いて、それ以下は自由にという意見だった。事務局、いかが。

（事務局）

どういう形がいいか正直わからないし、バランスがとりにくいとは思っていたところ。今の委員の意見もひとつの考え方なので、もう少しほかの委員さんも意見を出していただき、ある程度の方向性を決めていただけたらと考えている。

（D委員）

これだけ大量のことを書くなら、我々だけではなく専門家に書いてもらった方がよいのではないか。

（事務局）

専門的なところにもなってくるという点で、確かにその視点もあるかと思う。ただ、コラムの部分にも関わってくるが、現状の稼働力の範囲内であるところもあるかと思う。事務局としては、やはり主なところは委員の皆さんにお願いしたいと考えている。

（議長）

これについて今日100%決めることはできないが、あとの議題で執筆分担についてがある。そこでも同じ議論があると思う。私も場合によっては、委員以外にお願いする部分もあり得ると思う。

その他、特に第4章について、いかが。

（事務局）

今回示した第4章の概要の各項目は、思いつくものを並べたものに過ぎない。必要ないもの、複数をまとめられるものも当然考えられるので、そういった点も含めてご検討いただきたい。

（C委員）

表の外の「※歴史、最初、最後、最古、発見、人、は各項目共通」とはどういうことか。

（事務局）

共通項として考えられる項目を示したもの。例えば、山岳のガクでいえば、いちばん最初の山小屋であるとか、いちばん初めに到達した人など。楽のなかで、映画であれば松本のいちばん最初の映画館であるとか。学びの学では、民俗、歴史、考古などの発見の成果を特出しするとかをイメージしている。各項目でかぶっているもの、いらないものもあると思うので、他の委員からもご意見をいただきたい。

（議長）

他に、いかが。

（B委員）

結局第4章は何を書くのか。

公刊で読む市井史という記載もあるが、未来へのノスタルジー&メッセージとい

うのは具体的にどのようなページになるのか。何を書けばいいのか。ここで何を発し、伝えていきたいのかがよく分かっていないので教えていただきたい。

（事務局）

我々もあいまいなところがあるが、第2章、第3章で市史の基本的スタイルをとっていくなかで、その行間で落ちていってしまうような項目を第4章で拾っていくような構成を考えている。例えば、松本の老舗の飲食店が閉まってしまうとか消えていってしまうというような、公刊の部分からは抜け落ちてしまう部分を吸い上げていくというイメージを持っている。ほかのところとリンクする部分は出てくると思うが、例えば、スポーツの分野でもよいが第1号になったとか、最後になったもの、井上やパルコの閉店など、カチッとした部分から外れてくるような領域を掬ってきたいというイメージでいる。

（B委員）

雑多なトピックがどんどん展開していくイメージか。

（E委員）

イメージとしてぱっと思いつくのは、例えばスポーツで言うと、平成3年に松本市野球場がオープンした。その年に松商学園が春の甲子園で準優勝した。松本市野球場のこけら落としは松本深志と松商学園が対戦して、その時最初にホームランを打ったのは松商学園の上田佳範。そのあとプロ野球の巨人対ヤクルト戦があって、あの球場で最初にホームランを打ったプロ選手は古田敦也だった。その2人のバットが今飾られている。このようなエピソードは正面では取り上げないが、ここで取り上げるのかなと思う。映画でいくと山崎貴監督の話とか。音楽では、平成2年にサイトウ・キネン・フェスティバルが来ることになったときのエピソードとか、そういったものを書くイメージ

（D委員）

これはたぶん世相みたいなものだから、雑多なもの並べていくと執筆者の視点が出るがそれでよいのか。すごくおもしろいけど。

（議長）

前回はE委員から少しご意見をいただいたが、今改めて市野球場のことなど、例えばということで分かりやすくお話いただいた。事務局のほうで細かく出しているが、イメージは今のお話のとおりかなと思う。一方、D委員の指摘も大事なこと。公のところでしっかり記録されていないことも含めて多方面からいろいろなものが入ってくるというイメージで事務局は考えていると思う。まだ、しっかりしたイメージがわからないが、今出していただいた事例も含めて第4章はそれぞれのところで文章を書いていくということになると理解している。

（B委員）

D委員が言ったように3ガク都におさまりきらないものが結構ある気がする。とりあえず漏れてしまうものを積み上げていって、ある程度出そろったところで構成を改めて考えるということではなか。または、3ガク都の視点に当てはま

るものを最初から選んでいくことも考えられる。いずれにしても今の野球場のトピックが1ページになるイメージなのか。

(事務局)

ここは、1ページに固定ではなくフレキシブルに展開していくものと考えているが、同時にある程度のくくりが必要だということもあるかと思う。今後、項目を出していくなかで、この3つにおさまらないものや整合がとれないことが出てくるかもしれないので、取りまとめのなかで動きが出てくると考えている。

(議長)

ほかの委員はいかが。

(A委員)

第1章から第3章までは系統的、総合的で、第4章は項目や分類は別として個別的、具体的事例と理解した。例えば、松本でどのようにスポーツが広がったのかということを系統的に述べるのとは別に、上田選手のことだとか個別的、具体的なことを第4章で述べればよいので、項目の拾い方を三つのガクに無理して分けるのはどうかなという気がしている。要は第1章から第3章で拾えなかったもの、漏れたものを第4章で拾っていく、しかも個別的、具体的に書くということがおもしろいのではないかと考えている。

(E委員)

平成から令和のスポーツと音楽に関して言えば、音楽とスポーツ都市宣言をして施策を進めていく過程で、例えば和合市政の4期目の最終は総合体育館と野球場と図書館を作ったと書いていくが、そのなかでヤクルトが松本に来たとか書かない。そういった補う内容のものを第4章で書くといったイメージを持っている。

(議長)

今A委員、E委員から意見を出していただいた。それでいくということではないが、皆さん、さっきよりは具体的なイメージがわいたのではないかな。今のよう話が第4章に入ってくるとおもしろい、読んでもらえるような市史になるという気がする。

(E委員)

昔市政八十年のあゆみを担当した時のことだが、市政全般の動きについては小松芳郎さんが一人で全部書いて、市井と市民の暮らしは私が一人で全部書いた。各課から資料を全部提出していただいて、一人で書かないと読みづらくなってしまう。私が全部調べて書いたのではなくて、出してもらって書いたというスタイルをとった。たぶんこの基本構想2030、第12次基本計画の分野と合わせて、各課に書いたものを出せと言うとかなり抵抗がある。なので、各部の概要説明資料を集めてきて、それをベースに書いていくというスタイルをとったほうが楽だと思う。

(議長)

第3章のところ、過去の経験に照らし合わせて貴重なご意見をいただいた。第3章は各課から資料をいただいて精査し、それをリライトしていく形になっていく気

がする。

D委員、第4章は具体例を出していただいたが、そのようなところでよいか。

(D委員)

項目で平成令和を振り返ればよいということだね。例えば、音楽だったらクラシックだけでなく幅広く網羅的に紹介してあげたい。そうすると資料的価値も出てくるのではないか。

(議長)

方向性としては、今まで事例を出していただいたものをベースにして、それぞれの委員、その他も含めて個別的、具体的にまとめていくという流れかなと思う。

(D委員)

これもあって、あれもあってということを並べていけば結構楽しいと思う。

あと、項目別にだいたい何ページくらいと考えているのか。

(事務局)

まだ項目だての段階なので、具体的なページの割り振りは決まっていないが、あれこれあるものを収めていかななくてはならないので、事務局で均衡がとれるような形にもっていきたいと考えている。

(議長)

前回第3回委員会のときの提示と今回の提示で若干変わっているが、ページ数についてはそのままできている。おそらく事務局としても全体量は変わらないが、この時点でそれぞれの項目ごとのページの増減はできないということで前回から変更しておらず、ひとつの目安にすぎないと思う。第4章も128ページということで動いてきているが、具体的な項目を各委員から出してもらうなかで全体のページ構成と照らし合わせて決めていくことになると思う。

(事務局)

項目がしっかり決まらないなかでページ数もはっきりしないので、今当初のものを示している。今後だんだん詰めていければと考えている。

(議長)

B委員、イメージとしてはどうか。

(B委員)

ちょっと違う話だが、先日、市制施行120周年を迎えるにあたり、先人の顕彰について議会で質問があった。巻末に取り上げる人はどのあたりまでを紹介すると考えているのか。

(事務局)

具体的には、まだ検討中の段階。すそ野を広げるとかなり多くなるので、ルール付けをしたうえで示したい。

ウ 執筆分担について

(議長)

次に、ウ 執筆分担について事務局から説明願う。

(事務局)

(資料に基づき説明)

(議長)

事務局から一旦このような方向で分担したらどうか、素々案の段階だと思うが示された。先ほどE委員からの発言もあったが、皆さんの意見をいただきたい。

(B委員)

統計・グラフとか地図とか一部本文に挿入するものが事務局になっていて、巻末資料の統計・グラフなどは項目ごと(編集委員)となっている。本文に挿入するのは事務局が決めて入れ、残ったものは編集委員が巻末に資料としてまとめるというイメージなのか。本文を書いている編集委員が挿入するものを決めて、残ったものを事務局でまとめるほうが書きやすいと思う。

(事務局)

この点については編集委員の皆さんと相談しながら進めていきたい。

本文に挿入する資料やグラフはどういったものかいいかは執筆者の考えがあるので、執筆者の意見をきいて入れていくことになる。巻末につけるものは、担当の編集委員から意見をいただき相談しながら整理していく形になると思う。改めて相談したい。

(D委員)

コラムの人選も事務局で行うのか。

(事務局)

現時点ではそのような方向で考えているが、ご意見等あれば出してほしい。

(D委員)

お願いしたとき、インタビューならいいよという人もいると思う。その場合、誰が取材するのか。

(事務局)

そのような場合は委員の皆さんにお願いしていくことになる。

(E委員)

松本市史が出た以降の考古の発掘資料とか、松本城の研究専門員の研究成果、松本城に対するイメージもかつてのイメージとはだいぶ変わってきているので、せっかくの機会なので載せていけないか。

(議長)

前回の松本市史刊行からだいぶ時間が経った。世の中も変わってきている。松本市にとって大事な松本城やほか文化財も含めて変わってきている。そのあたりも含めて執筆を誰かにということだが、事務局、いかが。

(事務局)

どの部分に入れるかは相談になると思うが、全体の流れの中で入れるのか、あるいは第4章の項目として取り上げるのかやり方はいろいろあると思うので、事務局

でも考えていくが、ご意見があればぜひ教えていただきたい。

（Ａ委員）

第３章の例えば６番の経済・産業について、市政の推移ということは、過去の基本計画等を拾って、どのように経済対策を立て、どのような実践があって今に至っているということを書くのか。

（事務局）

具体的にどういう形かというのは難しいが、こういった背景があってこのような施策を行ってきたという流れを記述していくことが中心になると考えている。

（Ａ委員）

第３章は委員の専門性からみるとかなり偏っている。例えば、環境エネルギーとか都市基盤とか経済などは通り一遍の記述になるような気がする。それでもいいのだろうが、先ほどの基本計画や概要説明とかいろいろあるけど、職員が今後どうしていきたいか、市民がどのような要望をもっているのかという夢みたいなものも入れなければならないのか、それは後のほうだと思うが、市政の推移というのは委員の専門でない部分がかかなりあるので、基本計画などに準じて書くしかなくなる気がする。

今、事務局が言ったことが基本でよいと思うが。

（議長）

先ほどＥ委員から過去の経験の話があったが、再度お願いしたい。

（Ｅ委員）

その時は各課から原稿をもらってそれを統一的に表現したが、今回それが現実的ではないとしたら、事務報告書とか各部概要などを中心に書いていって、例えば、私は商工部に１０年以上いたのだからここは私がよく知っているとか、そのような割り振りをしていくしかないのではないかな。

（事務局）

分野ごと網羅的になるので、得意な部分、そうでない部分があるかと思うが、基本的には、既存の資料、各部概要や事務報告書などをベースに担当していただき、整理していくという形がいいのかなと考えている。

（議長）

事務局から方向性を示してもらった。執筆分担、若干修正部分はあると思うがこれでよいかな。

（Ｄ委員）

第３章を最初にちゃんとやってくれると、取りこぼしたところも見えてくるので、第４章の項目立てが楽かなと思う。

（議長）

Ｄ委員から第３章をきちんとすれば、第４章も比較的項目として浮かびやすいという意見があった。

（事務局）

委員のおっしゃる通りだと思う。ある程度第4章はこんな項目をと考えながら進めなければならないと思うが、第3章が少し先行するなかで第4章の項目を考えていくことになる。また、相談しながら進めていきたい。

(B委員)

第3章、総合計画に準じて7項目あって、それぞれの項目でまた二つ三つとかあって、これらを全部入れて40ページ。第3章が本筋とすると40ページでしっかり追えるのか。次の第4章の128ページと比べると3分の1くらいしかない。本筋と取りこぼしたもののページバランスはどうしたらよいかという思いがある。

(議長)

ページについては先ほど少し話したが、こういう論議を経ないと事務局でページの変更ができないことから最初そのままページ数を出していると思う。事務局、そういう理解でよいか。

(事務局)

おっしゃる通り。

(議長)

今B委員から意見もあったので、事務局は改めてページ配分の案を出してほしい。執筆分担についてはこれでよいか。

(各委員)

(異議なし)

## (2) その他

(議長)

その他、令和8年度の委員会について事務局から説明願う。

(事務局)

今年度中にあと4回開催予定。全部で5回開催したい。そこで、次回は8月頃を目途に開催したい。そのなかで、組み立てや執筆分担についてもある程度形づくっていききたい。次回の日程調整は改めてさせていただく。

(議長)

今年度、全体で5回予定している。今日1回済んだので、残り4回。次回は8月ということで、改めて事務局で日程調整する。

今日意見をいただいて、ページ数も含め事務局で修正する。今日は執筆分担について事務局案を示していただき、各委員さん了承いただいたという理解でよろしいか。

(各委員)

(異議なし)

(議長)

この市史を令和9年度のいつ刊行するかにもよるが、原稿を書いていくという作業に入らなければならない。そうすると、分担をある程度きちっと固めてお願いし

ていくという流れになるかと思う。なるべく早い時期に執筆分担を相談して決めて、それでいきたいと思っている。

従って、次回の委員会では、事務局は事前に各委員と調整したうえで素案を出してほしい。

最後に各委員から何か意見等あるか。

(各委員)

(意見なし)

(議長)

議事を終了し、進行を事務局に返す。

#### 4 閉会